

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100328		
法人名	株式会社山一山岸商店		
事業所名	グループホームかわせみ1		
所在地	北海道空知郡奈井江町字奈井江町161番地		
自己評価作成日	令和2年10月23日	評価結果市町村受理日	令和2年12月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0177100328-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は開設10年が経過しており、運営理念に基づき、利用者の安心、安全、楽しく暮らせる環境作り、また、利用者が自己決定出来るよう努め、一人一人が持つ力を最大限に生かせるよう、職員も利用者と共に歩き、ゆつくりと落ち着いた時間を過ごせるよう努めている。
今年度は例年とは違い新型コロナウイルスの流行により屋外での行事が出来ず、面会者の制限もしているため外部との交流が難しい。ただ感染の予防には安心して暮らせるように、消毒等を徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームかわせみ」は、敷地内の同法人デイサービス、老人ホームと廊下でつながっている1ユニットのグループホームであり、協力しながら交流をしている。近くには奈井江町認定こども園、高齢者福祉センター、コンビニエンスストアなどがあり、奈井江駅までも徒歩圏内で駐車場も広く訪問しやすい。町内会に加入し例年地域行事への参加や認定こども園との交流もある。今年度は感染症防止対策として外部との交流は難しいが、散歩での挨拶、野菜のお裾分けがあるなど良好な関係を築いている。利用者の感染症予防対策として当面の間は面会を窓越しとしており、年2回かわせみ新聞を発行し毎月郵送する事業所からの発送物に生活状況や健康状態、暮らしぶりを書いて添えている。家族会を隔月に開催している事も特筆の点であり、事業所からの報告や利用者の生活の様子等を説明し、家族から意見、要望を聞くなど一緒に話し合う機会を設けている。排泄管理表を確認しながら適切にトイレへ誘導し、運動を取り入れ自然な排泄ができるようにしている。午前午後の体操の他、職員手作りゲーム、ストラックアウト、脳トレドリル、一緒にマスクを作るなど余暇を工夫して利用者本人の意向やペースを大切にしている。家族とのつながりを重視し協力を得ながら家庭的で安心した暮らしの実現に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの際、理念を唱和し、理念に基づいたケアの実践に努めている。	理念は毎朝唱和しており職員に浸透している。事業所内の要所や介護員室に掲示し、パンフレットでも理念が確認できる。職員は日々の勤務で理念に沿った支援ができていないかを確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入、例年では地域の行事、幼稚園、老人会への参加、交流を行っていたが今年は新型コロナでこういった行事等が中止となり出来ていない。	感染症予防対策として、今までのような積極的な付き合いやボランティアの受け入れが困難であるが、近隣からトマトや野菜の差し入れがある。散歩に出た時には地域住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2と同じでコロナ予防のため行事関係全てが中止のためできていない状況。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を開催し感染予防をしっかりとしながら町担当者、地域のこども園や特養職員、利用者家族の方との情報交換をしている。	運営推進会議には事前に参加案内を郵送している。地域包括支援センター、ボランティア代表、元の利用者家族、入居者家族と利用状況や感染症対策等を話し合っている。参加できなかった家族には面会の際に伝えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者に運営推進会議に参加して頂き事例困難者、事例所体制、利用者の入所、退所後の情報交換を行っている。	町とは日頃から連絡を密にしており、困難事例の相談や重度化になった場合の受け入れ先の相談などで協力関係を築いている。保護課担当職員とは利用者の利用状況と入退院の報告や健康状態の説明をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状況を把握し、身体に危険がない限り拘束はしない。防犯上、夜勤隊の一人の時間は施錠しているが、基本24時間いつでも面会ができる体制である。しかし今年度に限ってはコロナ感染予防のため面会等に制限をかけている。	3か月ごとに開催している身体拘束廃止会議では、利用者ごとに身体拘束がないことを確認している。身体拘束ゼロの手引きを使いながら研修を含めた会議になっており、会議の議事録は整備されている。職員は身体拘束による弊害を認識しており不適切なケアは行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待がないか、声掛け、ケアの方法について話し合い虐待防止に努めている。管理者は職員の新進の休息が十分に取れているか配慮している。		

グループホームかわせみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修、外部研修、勉強会で学ぶ機会を持ち、権利擁護を理解し活用できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項を説明し理解を得た上で契約している。不明な点が残らないように十分な説明を行うことで、理解、納得していただけるよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からの利用者の状況報告を面会時、家族会の場で意見や要望を伺い、運営に反映するよう努めている。	2か月ごとに家族会を開催し、事業所からの報告や利用者の状況説明など詳しく話し合い意見ももらっている。毎月事業所からの送付書類に利用者の暮らしぶりや健康状態を書いて添えている。年2回かわせみ新聞を発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り、月1回の全体会議等で意見や提案について検討している。	毎月の全体会議で職員にストレスがないかを確認しており、日々の業務においても何かあれば相談をしている。事業所内で手作りの遊び道具を作ったり職員は得意な分野で活躍できる場面がある。希望休も月2回は取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	長期に無理な勤務体制にならない様、職員の負担が大きくなり勤務体制作りを努めている。各職員の長所、短所を把握し、配置転換やケア以外の作業の振り分け等、意欲、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3年目を迎える職員に認知症実務者研修を受けるよう努め、全体的なケア能力の向上に努めている。その他自分の行きたい研修への参加が出来る体制がある。(自主参加研修費の支給)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所行事への参加、地域研修会への参加、他事業所との交流を促進し事業所運営に生かしていきたい。今年度はコロナ感染予防のため参加はない。		

グループホームかわせみ

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に訪問調査、情報収集を行い、本人が望んでる生活、要望に対応できるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居間に、ご家族の方にも、見学、面接に同席していただき、入居後の不安、要望に沿うケアが提供できるようコミュニケーションを大切にし、意見、要望を話しやすい環境作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の環境、意向を確認し、当事業所以外の選択肢も説明している。入居に至らない場合でも、今後への相談、他施設への紹介等の対応を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をするという一方的な考えではなく、「ともに生活する」という意識を持ち、支えあいながら、信頼関係を築ける支援を実践している。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に方の意向を聞き、本人と良い関係を築けるよう、利用者、家族、事業所とのつながりを重視し、一つの問題を三者で解決していく支援を行っている。また、家族の方にできる事は協力していただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意向に基づき、老人会の慰問、馴染みの美容室の訪問カット、知人、友人の面会、自宅への帰宅等、関係継続の支援をしているが、今年度に限ってはコロナ感染予防のため出来てはいない。	感染症予防対策として以前のように頻繁な外出は制限があるが、今年度も町の文化祭に作品を作り、職員が持参して出品し展示されている。家族が受診送迎した際には自宅に寄ったり、外食や買い物をして戻る利用者もいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の思いや、できる、できない事を把握し、利用者同士がコミュニケーション出来る環境作りに努めている。	

グループホームかわせみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、他施設、退所された方への面会に行ったり、家族様に会ったときに様子を伺ったりしている。また、家族の方がボランティアで来てくださることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成の際、必ず本人、家族への意向を伺い、ケアの提供に反映できるように努めている。(お会いできない場合は書面で頂いています。)	言葉にするのが困難な利用者には選んでもらう場面を多く取り入れ、本人の希望に沿うようにしている。気づいた点は業務日誌に入力し計画の見直しの際に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前訪問にて情報収集し、どのような生活環境、サービス利用状況か等を調べ支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間アセスメントシートを使用し1日の生活の把握、日常の体調、能力、心の変化が見られれば都度記憶し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画、モニタリングは日々の気づきや意見を担当者会議等で検討し、現状に合ったケアができるようにしている。	モニタリングとアセスメントシートを活用し職員間で話し合い、短期目標は3か月ごと長期目標は6か月ごとに更新して介護計画を作成している。計画を作る前に利用者家族に次回のケアプランについての意向調査もしており意見も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、実践は全館共有できるPCにて、報告、確認できるようになっている。職員の気づいたことも入力できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせ、その時の状況にあったケアの実践、デイサービスとの交流を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	こども園の来訪、踊りの慰問、地域行事に参加し支援しているが、コロナ感染予防のためこれらのこともできない状況にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族に依頼。主治医に情報提供連携を図っている。町内に往診可能な主治医もあり、協力していただきながら支援している。	事業所で協力医療機関を追加した際も家族に伝えられている。2週間ごとに医師と看護師の訪問診療があり、パソコンの介護日誌に往診や受診の記録を付けている。	

グループホームかわせみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所は看護師の配置はしていない。また往診体制も整っている為、看護師配置の予定はなし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時医療連携室との譲歩提供を行い、情報を共有している。また定期的に面会に行き状況確認、必要であれば主治医の説明にも立ち会い退院時の対応についても協議している。今年度は病院の体制も感染予防のため変わってきており、電話連絡が多い。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重度化した場合の希望について家族から聞き取りを行っている。本人の意思の確認も必要とされるが難しいのが現状で答えがでない。主治医とも相談し、個別に対応している。	重度化対応・終末期ケアに係る対応指針を定め、利用開始時には口頭で説明している。食事の経口摂取ができない場合や常時の医療行為が発生する場合は、医師と家族を含め相談し対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年度、消防より救命講習を全職員で受けている。初期救命措置をとれるような体制をとっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回おこなっている。今年は11月と3月に行う予定。消火器や防火扉の使い方の訓練を行っているが、今年度は感染予防のため消防と連携を取り電話での訓練となる。	災害備蓄品のリストを作成し食材も3日分は確保している。法人内での合同災害訓練をしており、来月は夜間想定での地震による火災の訓練を予定している。災害別の避難マニュアルもファイル化している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リネンにもある様に、尊厳を守り、信頼関係を築けるよう努める。特に、声掛け、誘導灯での職員の言動に気を付けている。入浴、排泄介助は希望に応じて同性介助を実施。	個人記録類はパソコン上での管理や部外者の目につかない場所で保管している。言葉遣い等、接遇で気をつけて欲しい内容は全体会議で注意している。	対人援助の基本原則について内部研修等で学びを深められるよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、思いや希望を探り、本人が自分で決定できるような環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし、その都度たいちょうや気持ちに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院(訪問も含め)利用している。本にの希望を聞き、化粧、洋服選びを職員と一緒にやっている。		

グループホームかわせみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり、ある食材で何を作ったらよいかなど聞きメニューを考えたりしている。もやしやの芽、タケノコの皮むき等に参加して頂けるよう声掛けをしている。また準備、片付けができる方にはお手伝いをして頂いている。	職員が利用者に麺・ご飯等の希望を募ったり買い出しされた食材を見て献立している。季節の行事食やデリバリーの提供、誕生会やクリスマスにケーキを作っている。地域から野菜の差し入れもある。野菜の下拵えなどに利用者が携わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶、コーヒー、ジュース等、個々で選べることで水分の量を確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し、毎食後の口腔ケアを個々に行っている。声掛け、見守り、一部介助、技師洗浄は夜間預かり洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導を行い、失敗の回数を減らすよう努めている。失敗された場合は自尊心を傷つけない対応を心掛けている。	排泄状況記録はパソコン上で管理し、情報を共有している。全員がトイレ排泄が可能で自立の方が多い。一部介助や誘導が必要な方へは本人ができない部分を支えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物、乳製品、食物繊維の摂取、できる方には軽い運動を行い、できる限り、自然排便を促せるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望、タイミングに合わせ実施。体調や拒否のある場合は無理強いないで、翌日に変更、時間をおいてから声掛けをしている。1日3名程度、平均週2・3回入浴している。	1日3名の利用者の入浴を支援し、特に午前午後の設定を設けず本人の希望等に応じている。気分が乗らない方へは無理強いないで翌日に対応している。また1人ずつ湯を替えたり好みの湯加減で入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせて、休息して頂いている。日中適度な活動を促すことで夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容等は職員も把握し、個人ファイルでいつでも確認できるよう保管している。変更がある場合や要観察が必要な時は受診記録に記載、お知らせ等で全館共有できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味に合わせ、仕治、洗濯たたみ、縫物、塗り絵等に参加して頂いている。また、デイとの交流でできる事に参加されている。(ちぎり絵・パズル・ビーズ等)		

グループホームかわせみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に個々の希望に沿う外出支援はできていない。コロナ感染予防のため換気のため窓を開けたときに外の空気を吸ったり天気の良い日は玄関先で日向ぼっこをすることもある。	天候のよい時期は広い敷地内の散歩やスロープ前にベンチを置き日光浴を兼ね外気に触れている。昨年度は初詣や道の駅、町の文化祭、ドライブで桜見学に出かけていた。屋内通路から併設デイサービスへ出かけ、楽しみごとと一緒にするなど気分転換の一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、持っていただくようにはしている。家族の方に理解、協力を得て管理して頂いている。現在はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話、手紙、年賀状の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節感を出すように飾り付けをしている。	リビングダイニングが一体となった造りで、併設デイサービスとは屋内通路でつながっている。畳仕様で大きめの台座がある。季節感ある壁面制作や折り紙、塗り絵など利用者の作品を掲示している。加湿・空気清浄機を備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合った方同士が過ごせるよう、席の配置など工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ってきていただくようにお話しています。今までと変わらず安心して暮らせるように工夫している。	居室入り口には表札を掲げ、ベッドと照明の他、2室はクロゼットが完備されている。馴染みの品々や家族の写真、本人の好みの物を飾っている。設えは家族と相談し環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、トイレ等に目の高さに合わせ看板、表札、目印を表示している。また安全に生活できるよう、不要なものはおかず、行きたい場所に行けるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームかわせみ

作成日：令和 2年 12月 1日

市町村受理日：令和 2年 12月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	個人記録等は外部者の目につかない場所に保管されているが、言葉遣いや接遇では不適切だったり、馴れ合いの声掛けになってしまうことがある。	誰が聞いても不快にならない言動・接遇ができるようになる。	ミーティングのときなど日頃の業務のなかでの不適切な言動や態度がなかったか振り返る機会を設けることと、職員の意識を高めるために、内部研修を開催していきたい。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。